

ノースウェスタン大学 シカゴキャンパスでの留学生活

Northwestern University

谷口 紗貴子

(東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻
食と生体機能モデル学研究室)

2019年春よりノースウェスタン大学シカゴキャンパスで神経科学分野の研究を行っています。具体的には発達期の中枢神経系におけるカイニン酸型グルタミン酸受容体の役割を明らかにするため、ヒトの神経発達障害を基にして作出された遺伝子改変マウスの解析に取り組んでいます。留学先の Swanson Laboratory はメンバーが4人という比較的小規模な研究室ですが、その分 PI とディスカッションできる機会が多く新米ポスドクの私にとっては大変良い環境だと感じています。所属研究室は複数の研究室がつながったオープンラボ形式をとっており、多くの研究者と交流できるため刺激を受ける機会がたくさんあります。また、学内では毎日いくつものセミナーが開催されており、日常的に様々な分野の勉強をすることができます。その他にも学部内での研究交流会やクリスマス会など、イベントも盛りだくさんで大変自由な雰囲気での研究生活を送ることができています。

シカゴは大都市で生活に必要なものは何でも揃っており、これまで不便を感じたことはほとんどありません。公共交通機関も整っており非常に暮らしやすい街です。ミシガン湖ビーチやシカゴ川沿いの景観も美しく、街中に有名な建築物がたくさんあるため散歩をするだけでも楽しい気分になります。博物館や美術館といった文化施設も充実している上、アメリカンフットボール、野球、バスケットボール、アイスホッケーのプロチームがあり、アメリカ四大スポーツをすべて楽しめる都市でもあります。

現地の同世代の友人がたくさんできることも留学の醍醐味です。彼らは非常にポジティブで私が悩んでいる時には、「アメリカン」なアドバイスをくれます。友人たちには研究面のサポートだけでなく、独立記念日の BBQ パーティやフレンズギビング（サンクスギビングを友人同士で祝うパーティ）へ招いてもらったり、アメリカの文化について教わったり、引越しを手伝ってもらったりとプライベートでも非常にお世話になっています。周りの人々と環境に恵まれ、シカゴでの生活は本当に濃厚で充実したものとなっています。

私は大学院在学中に指導教員が「若いうちに留学したほうが良い」と勧めてくださったこともあり、一度は海外で研究を行いたいと考えていました。今回上原記念生命科学財団からご支援をいただいたため学位取得後すぐにスムーズに留学することができました。知識や経験が少ない中で、英語でのゼミ発表やディスカッションは大変なことがほとんどですが、一年前と比べると随分と成長することができたと感じております。このような素晴らしい機

会を与えてくださいました上原記念生命科学財団の皆様には心から感謝申し上げます。そして今後もより一層努力していきたいと思いを。



シカゴ川沿いの風景